

令和4年松本市議会12月定例会
市長提案説明

[4.11.28(月) 13:30]

令和4年松本市議会12月定例会を招集しましたところ、議員の皆様方に揃って出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

アメリカの金利引き上げにより1ドル150円台まで進んだ円安は、140円前後の水準で推移しています。世界の原油や穀物の価格も、ウクライナ侵攻後のピークからは低下しています。しかし、現在も、食料品やエネルギーなどの生活に身近な品目の値上がりが続き、消費者物価指数は40年ぶりの上昇率となっています。

政府は、こうした経済状況に対し、地方自治体がそれぞれ実態に即した支援を行うことを目的に、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を創設しました。これを受けて、松本市は、物価の上昇で日常の生活や経営に特に深刻な影響を受けている市民や事業者を対象に、追加の支援策を実施します。

具体的には、国と県の給付金が支給される低所得世帯に対し、冬季の暖房代などの補填として1世帯当たり1万円を上乗せして支給するほか、18歳以下の子どもを育てている世帯に対し、特別給付金として子ども1人当たり1万円を一律に支給します。

一方、事業者向けでは、物価上昇の影響を受けても料金に転嫁することが困難な業種に焦点を当て、障がい者並びに高齢者の福祉施設のうち長野県の支援事業の対象にならない施設と、私立の保育園・幼稚園・認定こども園等に対し、安定したサービスの提供を後押しする交付金を支給します。さらに、これまで支援対象になっていなかった中小貨物運送事業者に対しても、事業継続に向けた交付金を支給します。

10月の臨時会で決定いただいた低所得世帯に対する給付金以外の事業については、今日提出した補正予算に計上しています。

新型コロナは、第8波の流行を迎え、高齢者を中心に新規陽性者が増加し、コロナ患者を受け入れる医療機関の逼迫度が高まっています。一方、政府は、感染症法上の位置づけを季節性インフルエンザ並みの「5類」などに移行する検討に入ると報道されています。ワクチン接種や自然感染によって免疫を持つ人が増え、症状の重さは季節性インフルエンザに近づいているという見方が広がり、医療の逼迫度を和らげる観点からも、コロナの位置づけを見直す段階にきたとの判断があるとみられます。

松本市としては、主に高齢者以外は軽症にとどまる病気と捉え、オミクロン株対応ワクチンの接種を積極的に進めることなどで、医療機関の逼迫度を抑えながら、社会生活や経済活動を続けていくことが重要であると考えています。

こうした中で、円安の影響もあり、海外からの旅行者の需要が急速に回復しています。松本市を訪れる観光客も増加傾向にあります。こうした観光需要を地域経済の再生につなげていけるよう、来月1日から冬の誘客キャンペーンに取り組んでいきます。

市内の宿泊者に対し、宿泊料金の割引と飲食店などで利用できるデジタルクーポン「まつもとコイン」を提供する、「まつもと冬割キャンペーン」は、昨年は県内の在住者とFDAの利用者に限定していましたが、今回は全国の旅行者に対象を拡大します。さらに、プラスチックごみの削減を図る「エコ旅キャンペーン」の一環として、使い捨て歯ブラシを辞退する宿泊者に「まつもとコイン」を付与します。

このほか、昨年11万人に来場いただいた、松本城のレーザーマッピングや、中心市街地のイルミネーション、大手門櫛形跡広場の週末

イベントを開催し、ウィズコロナで迎える松本の冬に賑わいを生み出していきます。

昨年から再検討を進めてきた、学校給食センターの再整備事業について申し上げます。

松本市は、現在、5つの学校給食センターで、小学校25校、中学校16校に給食を提供していますが、四賀を除く4つのセンターは、築年数の経過により老朽化が進み、改正された衛生管理基準の対応に課題が生じています。

こうした状況を踏まえ、今月、「松本市学校給食センター再整備基本方針」を策定しました。これまで「松本市給食のあり方研究会」の提言や市民説明会で出された意見を基に、最新の設備や効率的な調理動線を備えた高機能センターを整備すること、地元で採れた野菜や果物の使用を増やし、現在の波田と梓川の学校給食センターの質を維持すること、安全・安心な給食を提供し続けるために、将来にわたって松本市の直営を維持することを基本方針に決めました。

そして、この方針を実現するために、最大調理能力6000食の中規模センターを新たに2施設建設し、それぞれ1500食を4ラインで調理する工程で給食を提供する、現在稼働中の東部学校給食センターを同じ機能を持つ施設に大規模改修する、老朽化した西部・波田・梓川の3施設を廃止し、中規模3センター方式に再編していきます。

この基本方針について、先の経済文教委員協議会でご了承いただきましたので、地元根ざした質の高い給食を安全な環境で子どもたちに提供していくため、引き続き建設用地の選定や基本計画の策定に、着実に取り組んでいきます。

松本市が制度設計を行い、民間事業者が運営・運行を担う「まつ

もと公設民営バス」が、来年4月から運行をスタートします。

交通空白地域を解消するための路線の新設や、駅へのアクセスの改善などを考慮したルートの変更、通勤通学の時間帯の増便を柱としたダイヤの改正を行うことにより、市民にとって利便性が高いバスの実現を目指していきます。新たな路線やダイヤを十分に周知すると共に、バス待ち環境の整備などにも取り組んでいきます。

新しくスタートする松本市民のバスに愛着をもっていただこうと、先月「ロゴマークと愛称」の募集を行ったところ、合わせて190件の応募をいただきました。それぞれ5つの候補に絞り、来月1日からインターネットなどで実施する、市民の投票で決定させていただきます。ぜひ大勢の皆さんの投票をお願いします。

今月13日、3年ぶり3回目となる「松本マラソン」が、全国各地からおよそ5,000人のランナーを迎えて開催されました。

ご尽力いただいた実行委員会をはじめ、協賛企業、およそ1400人のボランティアや交通規制にご協力いただいた皆さん、そして沿道から温かい声援を送っていただいた市民の皆さんに、改めて感謝を申し上げます。

大会当日まで心配された天気も、スタート時点では北アルプスを望む晴れ間が広がり、公式サポーターとして協力していただいた小平奈緒さんの号砲を合図に、大勢のランナーが「松本らしさ」を詰め込んだ新しいコースへ笑顔で駆け出していきました。

コロナから回復途上の大会で、参加したランナーは定員の半分ほどにとどまりましたが、上り坂の多い難コースと強い向かい風にもかかわらず、全体の94%のランナーが完走を果たしました。ゴール地点のスカイパークでは、それぞれの家族や仲間が声援を送って健闘を

讚え、最終の女性ランナーと大会ゲストの皆さんが揃ってゴールする印象的なシーンもありました。

松本マラソンは、走る人・支える人・応援する人、すべての人たちが「三ガク都」に象徴される松本らしさに共鳴する大会を目指し、再出発しました。松本の新しいスポーツ文化として、シンカし続けていくことを期待します。

それでは、ただいま上程された議案について、ご説明申し上げます。

提案した議案は、条例6件、予算3件、契約2件、財産5件、道路1件、その他22件の、合計39件であります。

始めに、条例について申し上げます。地方公務員法の改正により令和5年4月から定年が引き上げられることに伴う条例の制定1件、個人情報保護に関する法律の改正に伴い、条例を全部改正するもの、松本駅周辺の自転車駐車場の使用料を見直すもの、国の人事院勧告に準じ、給料表を改定するためのものなど、条例改正5件を提出しています。

次に、補正予算について申し上げます。

予算は、令和4年度一般会計補正予算1件、特別会計補正予算2件を提出しています。

一般会計は、先ほど申し上げた、子育て世帯の給付金をはじめ「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を活用した事業に関わる経費を計上しています。また、令和5年度から基本協定を締結する指定管理施設の債務負担行為を一般会計と特別会計に設定しています。

以上によりまして、一般会計の補正額は、4億8,539万円の追加で、補正後の予算規模は、前年度同期比2.0%増の1,127億

3, 092万円。全会計の補正後の予算規模は、1, 952億1, 408万円となり、前年度同期比では2.6%の増となりました。

次に、契約では、村井町南の商業施設内に、多世代交流型子育て支援施設を設置する工事について、設計施工を委託するもの、エコトピア山田の廃棄物移設工事に関わる議決更正2件を提出しています。

次に、財産として、消防ポンプ自動車、遠隔授業配信用機器などの取得4件、うつくしの里デイサービスセンターの譲渡1件を提出しています。

その他の議案として、市道の認定1件、野球場など公の施設に係る指定管理者の指定に関する議案22件を提出しています。

議案以外のものとしては、市長の専決処分事項の指定に関わる報告を、3件報告しています。

なお、この定例会中に、人事案件として、「教育委員会委員の任命」及び「公平委員会委員の選任」を、それぞれ追加提案する予定です。

以上、本日提案した議案等について説明申し上げました。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

(以 上)